



發行日二回 每月一日十五日 編輯兼 小林庫二 發行人 福島縣石城郡四倉町 中町四十一番地 發行所 四倉新報社 福島縣石城郡平町 町三十一番地 印刷所 一〇活版所 本紙定價 一月十錢 月貳拾錢(年二圓)

銀行の鑑定法

小林 芳月

銀行の所有財産に見るに、即ち其所有に係る動産、不動産を時價に比し如何なる割合に評價せるかの觀察も必要である。

何々株は時價幾何と唱へ居るか又買入當時の値と幾何なるかを生じ居るか、若し買入當時より高價なるも是れを以て決算報告書を編成するは不當と云ふ可からざるも其評價振りは調査する必要である。

即ち其時價は常に變化あるものである故時價よりも安値に買入れしとすれば時價よりも内輪に見積りて計算するが安全である、從て銀行の所有に係る有價證券の評價額か時價に比し差が大ければ大い程即ち安價に見積りすれば其銀行の基礎は鞏固なりと言ふ事が出来る。

銀行の固定資産と流動資産の割合を調査する最も必要とする。流動資産とは現金、國債社

債券、日本銀行見返品の如りである。比較的容易に現金に換ひ得る者を云ふのである。固定資産とは土地、建物等金の引出請求に來るやも知

債券、日本銀行見返品の如りである。比較的容易に現金に換ひ得る者を云ふのである。固定資産とは土地、建物等金の引出請求に來るやも知

銀行は資本を敏速に運轉し當の準備金を用意するが利益を得るが目的であるか要であるのである。利益を得るが目的であるか要であるのである。利益を得るが目的であるか要であるのである。

若しそれ資産固定するも預固定資産の多額の銀行は危金之已に依り營業成績を上險であり。流動資産の多額

金なるものは一朝請求せらる事が出来る。(續) れば拂戻しを要するものであるが故に預金に之已よべ順次各銀行の現在營業振

と云ふ事は最も危険の至りを批判せんとす。 〇〇〇〇社の 高級社員を

暴漢四名にて脅迫す 裏面に某有力者 高級社員を 暴漢四名にて脅迫す 裏面に某有力者

比類なき 四倉本町の 四倉町修養團は佐藤幸三郎氏を團長に團員は丁年未滿の者にて組織し團員十名を有する団体であるが近來稀れに見る美しき修養團で我四倉町の代表的集團である

修養團 四倉町修養團は佐藤幸三郎氏を團長に團員は丁年未滿の者にて組織し團員十名を有する団体であるが近來稀れに見る美しき修養團で我四倉町の代表的集團である

組上の人物 四倉町々々議員 長谷川寅次郎 彼れ町會議員寅次郎一度町會議場に於て駭辯を振るふ時、實にライオンの如き威

芳月會 修養を目的とせる琴古流尺八研究會が出来て居ります同好の士は御入會を

告 修養を目的とせる琴古流尺八研究會が出来て居ります同好の士は御入會を

御料館 御料館 御料館

御料館 御料館 御料館

時代劇 大西郷 脚本 西郷隆盛 桐野利秋 同僚雪枝 藝妓秀香 舞妓小秀 横田進之丞 其の他改進黨員及雜兵大勢

隆盛「まあ！待て。其んな隆盛「まあさう言われても事はどうでもよい私の胸にござすじや。

隆盛「まあ！待て。其んな隆盛「まあさう言われても事はどうでもよい私の胸にござすじや。

隆盛「まあ！待て。其んな隆盛「まあさう言われても事はどうでもよい私の胸にござすじや。

隆盛「まあ！待て。其んな隆盛「まあさう言われても事はどうでもよい私の胸にござすじや。

隆盛「まあ！待て。其んな隆盛「まあさう言われても事はどうでもよい私の胸にござすじや。

隆盛「まあ！待て。其んな隆盛「まあさう言われても事はどうでもよい私の胸にござすじや。

御料館 電話 五番